第３章　高齢者を取り巻く現状

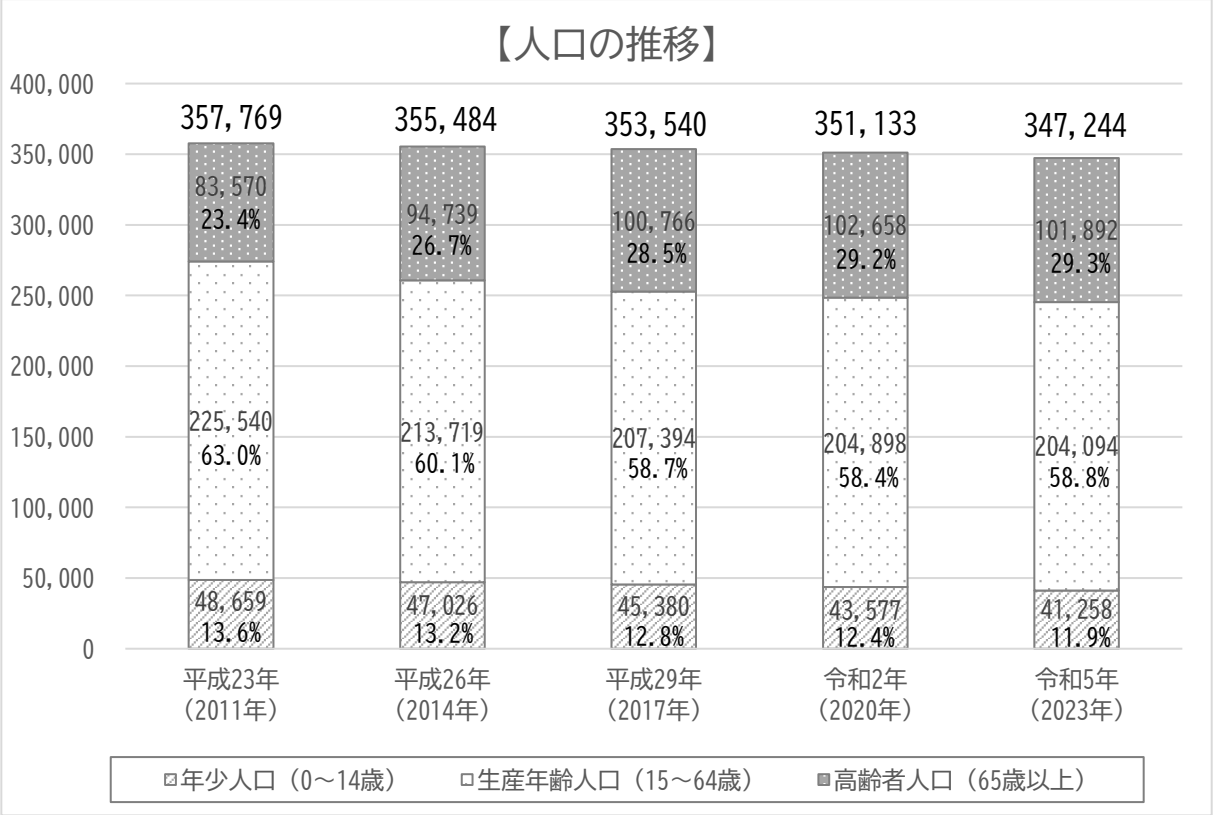
１　人口構成及び高齢化の現状

（１）人口の推移

本市の人口は、令和 5(2023)年 9 月末現在 347,244 人で、近年は緩やかに減少しています。人口構成をみると、年少人口、生産年齢人口、高齢者人口ともに減少しています。

また、総人口に占める高齢者人口の割合は、年々上昇しており、令和5(2023)年度には29.3%となっています。

（単位：人）



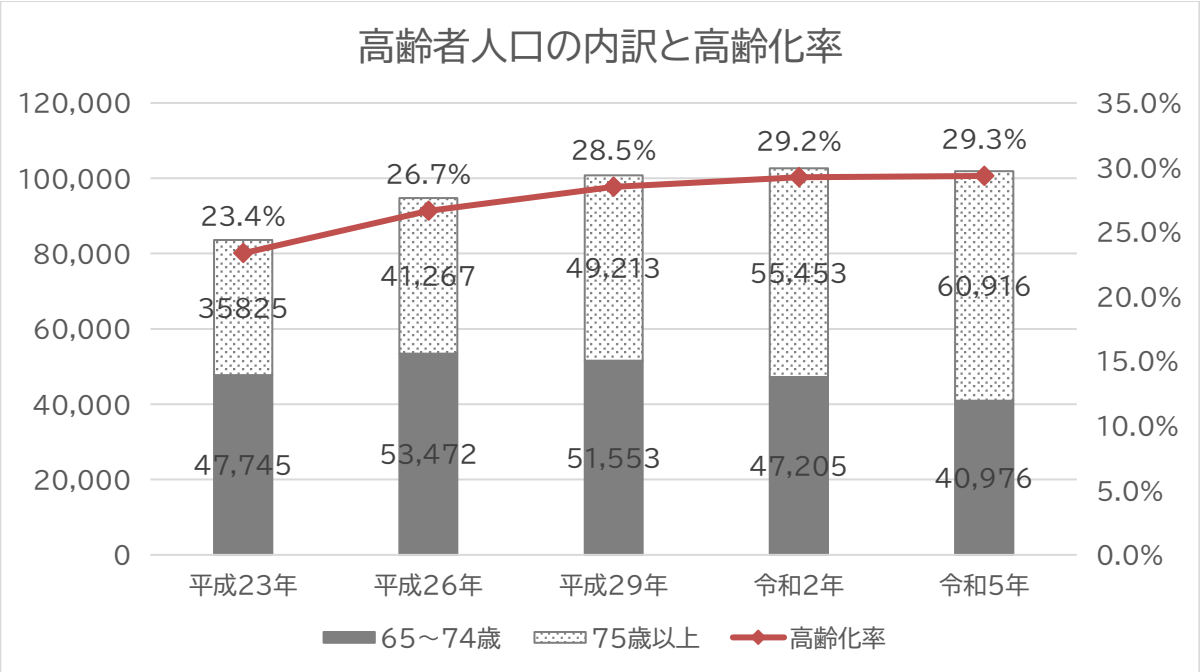
住民基本台帳（各年 9 月末現在）
（平成 23(2011)年は住民基本台帳人口及び外国人登録人口）

（２）高齢者人口と高齢化率

高齢者人口は 10 万人を超える水準で年々増加していましたが、令和 2(2020)年以降に減少傾向へ転じています。高齢化率は令和 5(2023)年 9 月末現在で 29.3%と高止まりしていますが、特に 75 歳以上の後期高齢者数が増加し続けており、高齢者人口に占める後期高齢者割合は 59.8%となっています。

これは、全国 29.1%(総務省人口推計令和 5(2023)年 9 月 1 日現在)、大阪府 27.1%(令和 5(2023)年 9 月 1 日現在)と比較しても高い水準です。

（単位：人、%）



住民基本台帳（各年 9 月末現在）
（平成 23(2011)年は住民基本台帳人口及び外国人登録人口）

【高齢者人口の内訳】

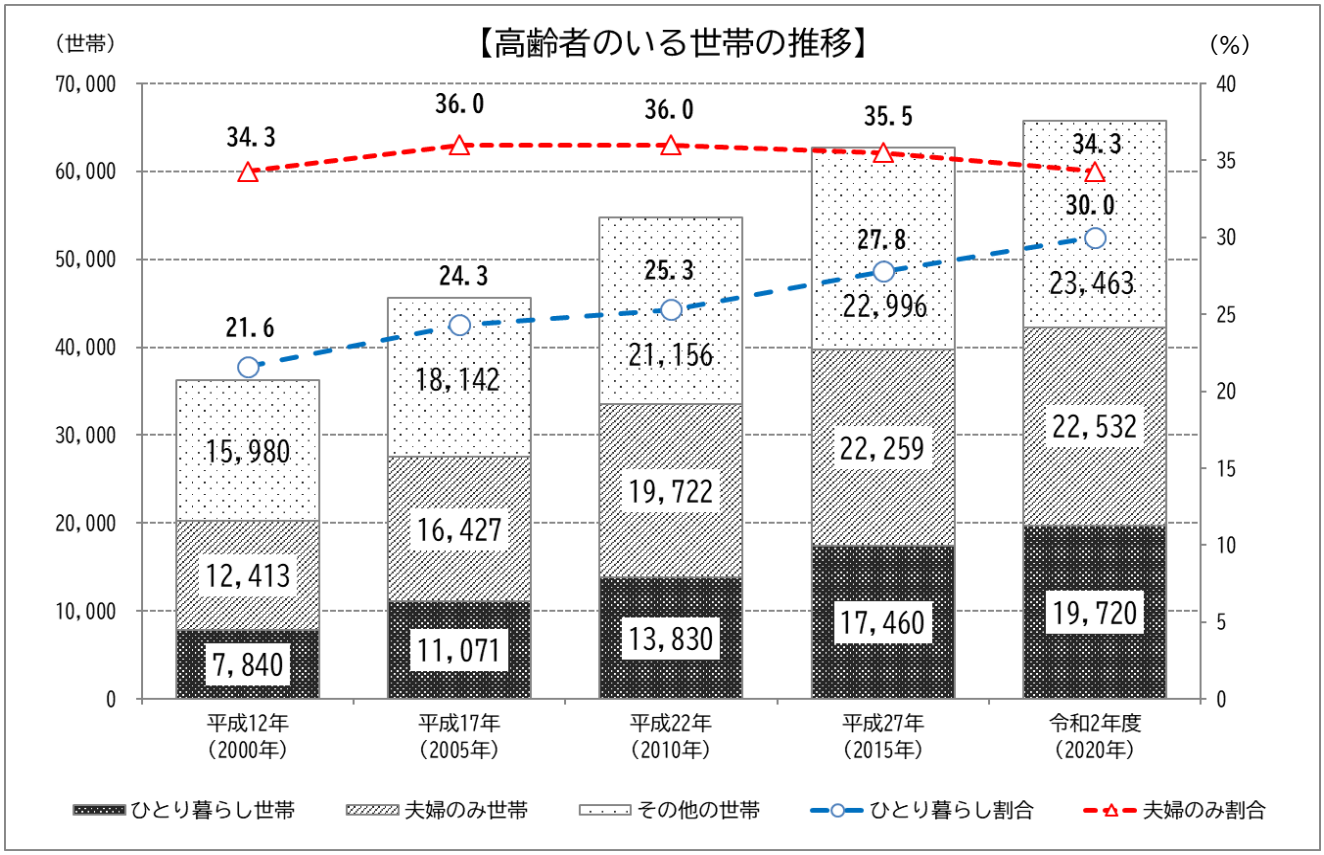
（単位：人）

		平成 23 年（2011 年）	平成 26 年（2014 年）	平成 29 年（2017 年）	令和 2 年（2020 年）	令和 5 年（2023 年）
高齢者人口（65 歳以上）		83,570	94,739	100,766	102,658	101,892
	65～74 歳	47,745	53,472	51,553	47,205	40,976
	75 歳以上	35,825	41,267	49,213	55,453	60,916
	高齢者人口に占める後期高齢者割合	42.9%	43.6%	48.8%	54.0%	59.8%

住民基本台帳（各年 9 月末現在）
（平成 23(2011）年は住民基本台帳人口及び外国人登録人口）

（３）高齢者世帯の状況

高齢者のいる世帯は一貫して増加しており、なかでもひとり暮らし世帯や夫婦のみの世帯など、高齢者のみの世帯が特に増加しています。令和 2(2020)年現在で、高齢者のいる世帯に対するひとり暮らし世帯の割合は30.0%、高齢者夫婦のみの世帯の割合は34.3%であり、高齢者のいる世帯の 6 割以上が高齢者のみの世帯となっています。

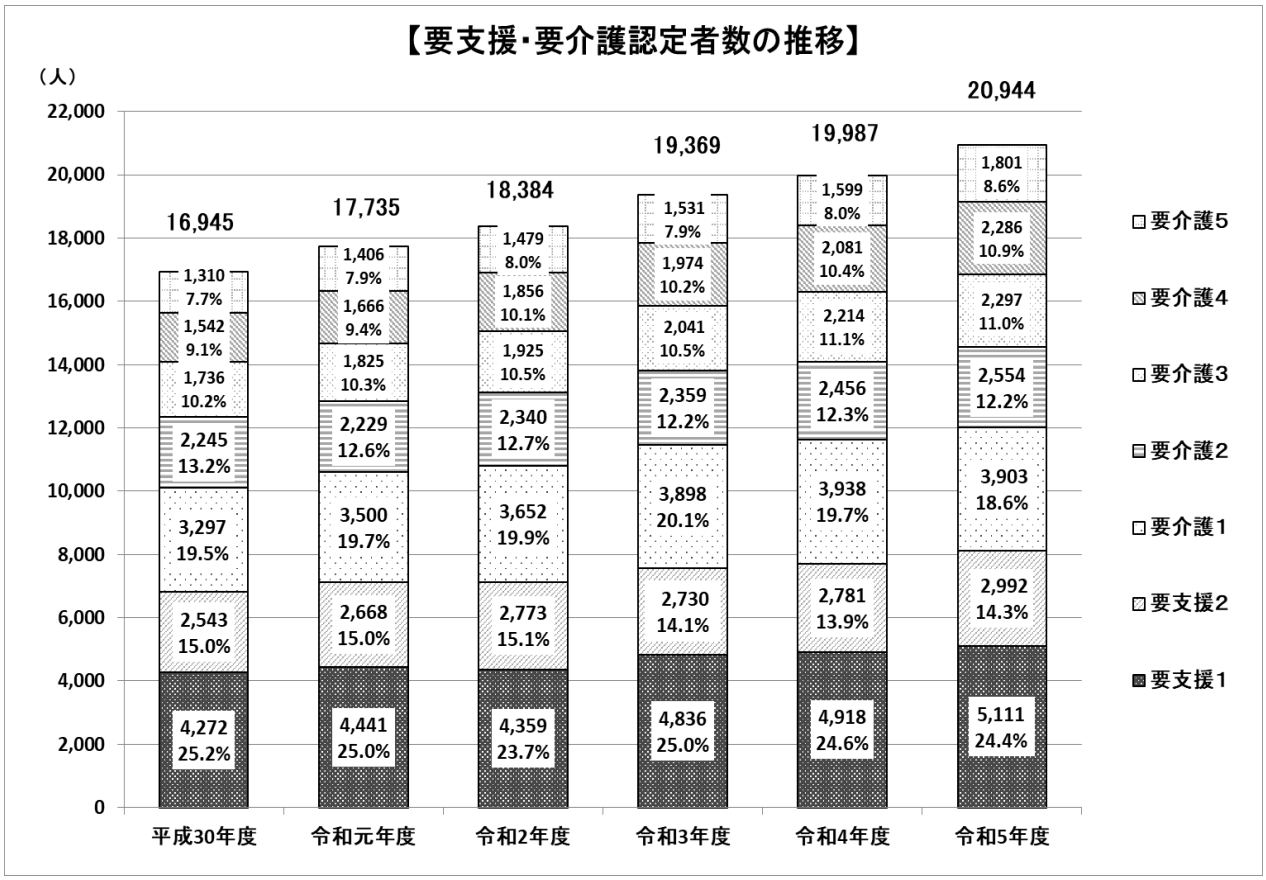


国勢調査（各年 10 月 1 日現在）

２　要介護等認定者の状況

（１）要介護等認定者数

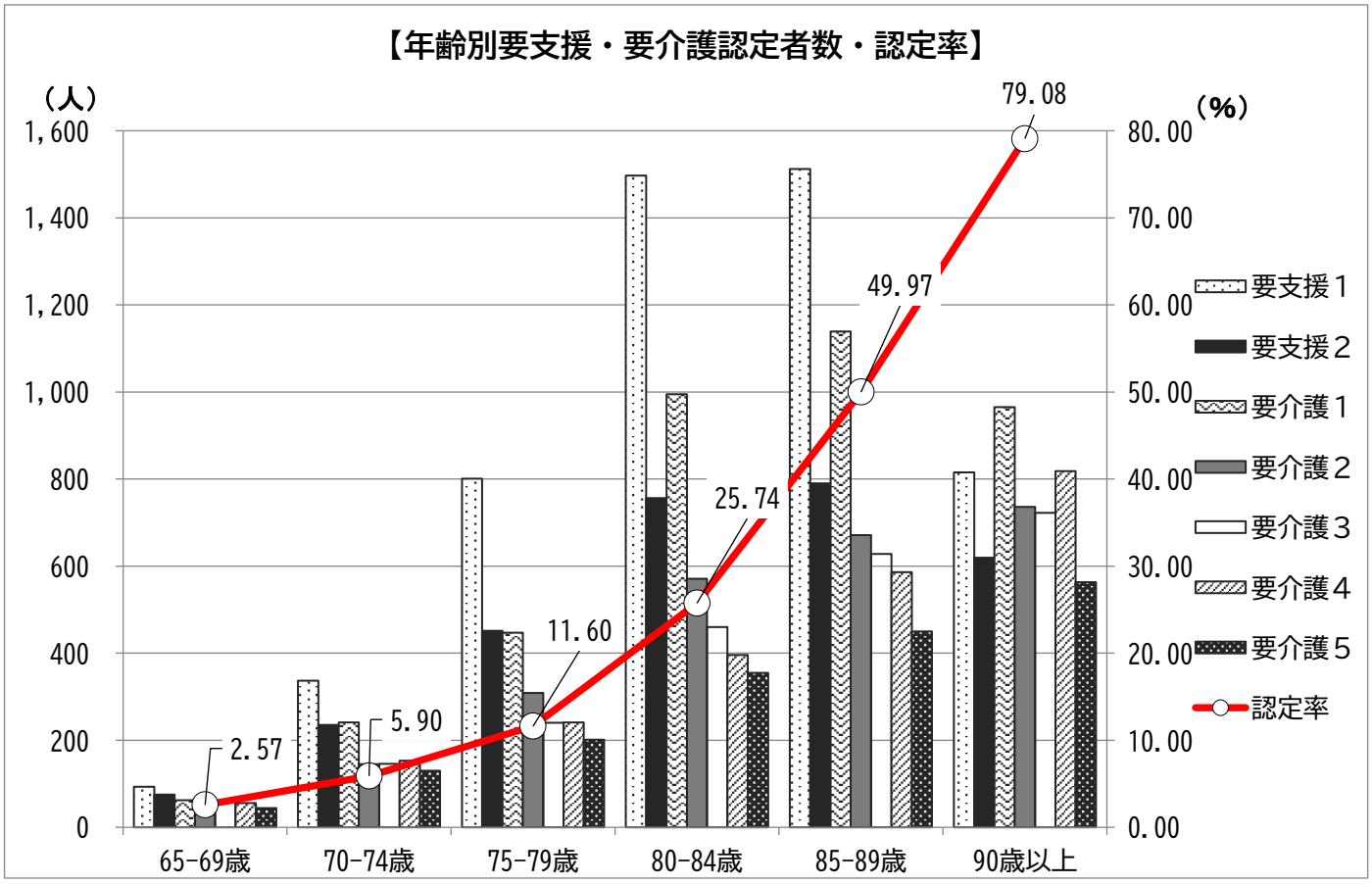
要介護等認定者数は、年々増加し、令和 5(2023)年 9 月末現在 20,944 人となっています。要介護度別の構成比をみると要支援 1・2 及び要介護 1 の占める割合が高く、令和 5(2023)年 9 月末現在で約 6 割となっています。



介護保険事業状況報告（各年度 9 月末現在）

（２）年齢別要介護等認定者数と認定率

年齢別要介護等認定者数と認定率について、80歳以上になると要介護等認定者数が増加し、認定率も高くなります。



高槻市資料（令和５(2023)年９月末現在）

３　日常生活圏域別の高齢者の現状

日常生活圏域別に比較すると高齢化率は高槻南圏域、認定率は高槻東圏域が高くなっています。

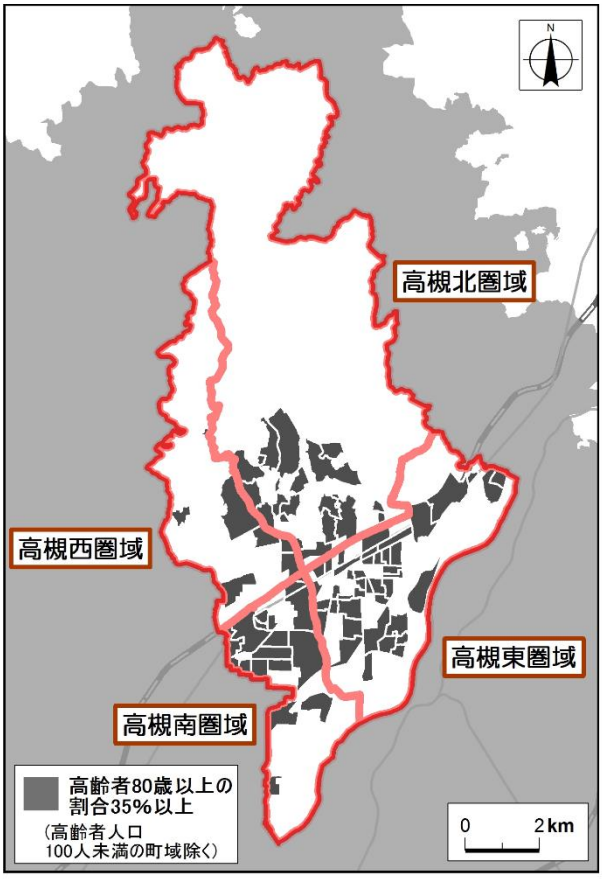
	高槻北圏域	高槻東圏域	高槻南圏域	高槻西圏域
人口	92,510 人	113,129 人	79,791 人	61,814 人
65 歳以上人口	27,293 人	31,801 人	26,074 人	16,724 人
高齢化率	29.5%	28.1%	32.7%	27.1%
認定率	18.8%	20.6%	20.4%	18.0%

住民基本台帳（令和 5(2023)年 9 月末現在）

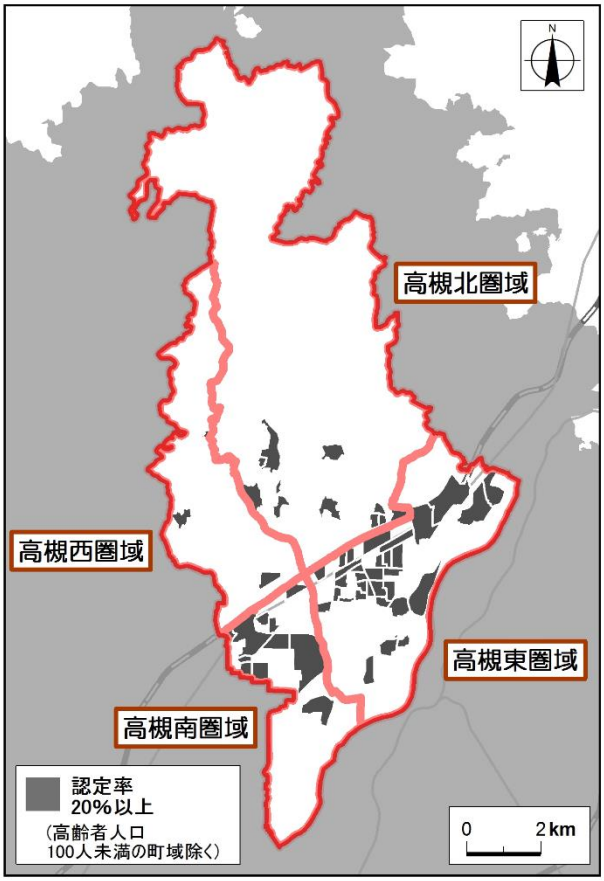
※認定率＝第 1 号被保険者の要支援認定者数・要介護認定者数／第 1 号被保険者数

高齢者人口のうち、80 歳以上人口割合が 35%以上である地域と認定率が 20%以上の地域とを調べたところ、下図のように高齢化は進展し、認定率の分布は、特に鉄道の駅周辺を中心に広がっていることがわかりました。

高齢者人口のうち
80 歳以上割合が 35%以上の地域



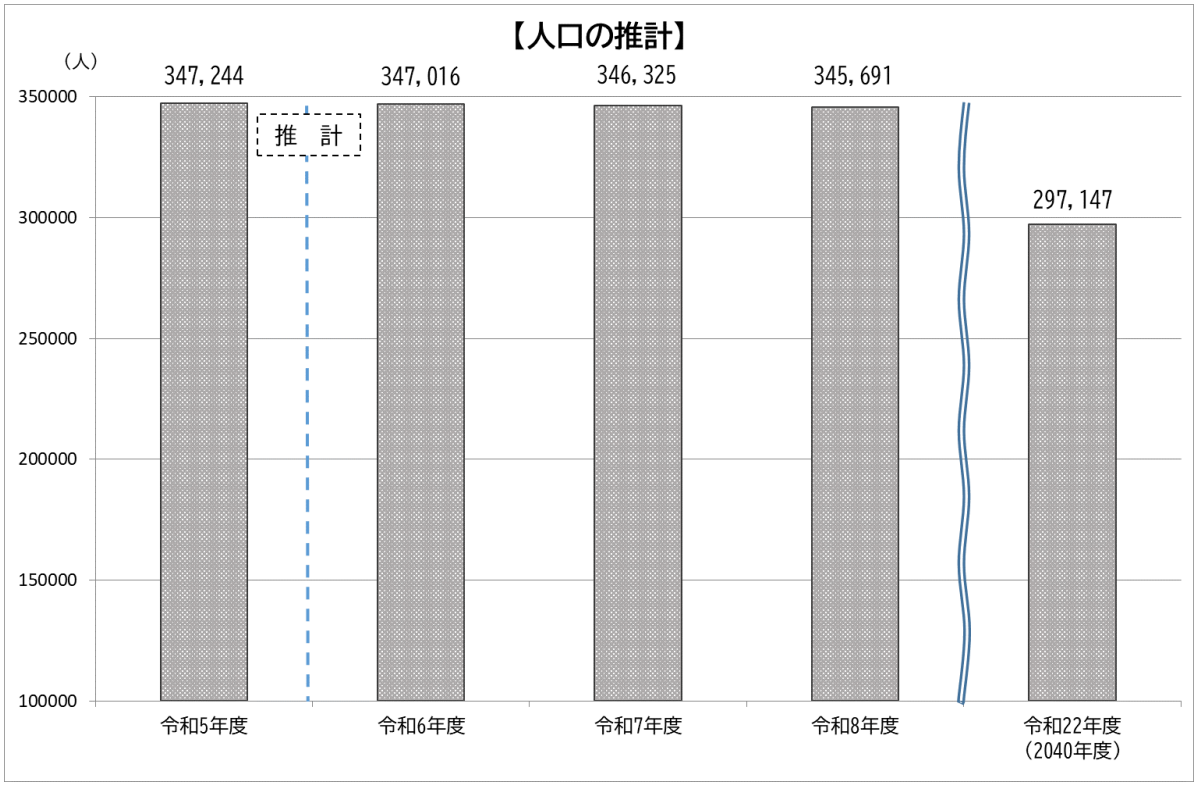
認定率が 20%以上の地域



4　将来推計

（１）人口の推計

本市の将来人口の推計では、令和 6(2024)年度から令和 8(2026)年度まで人口は緩やかに減少し、令和 22(2040)年度までには大幅に減少することが予測されます。

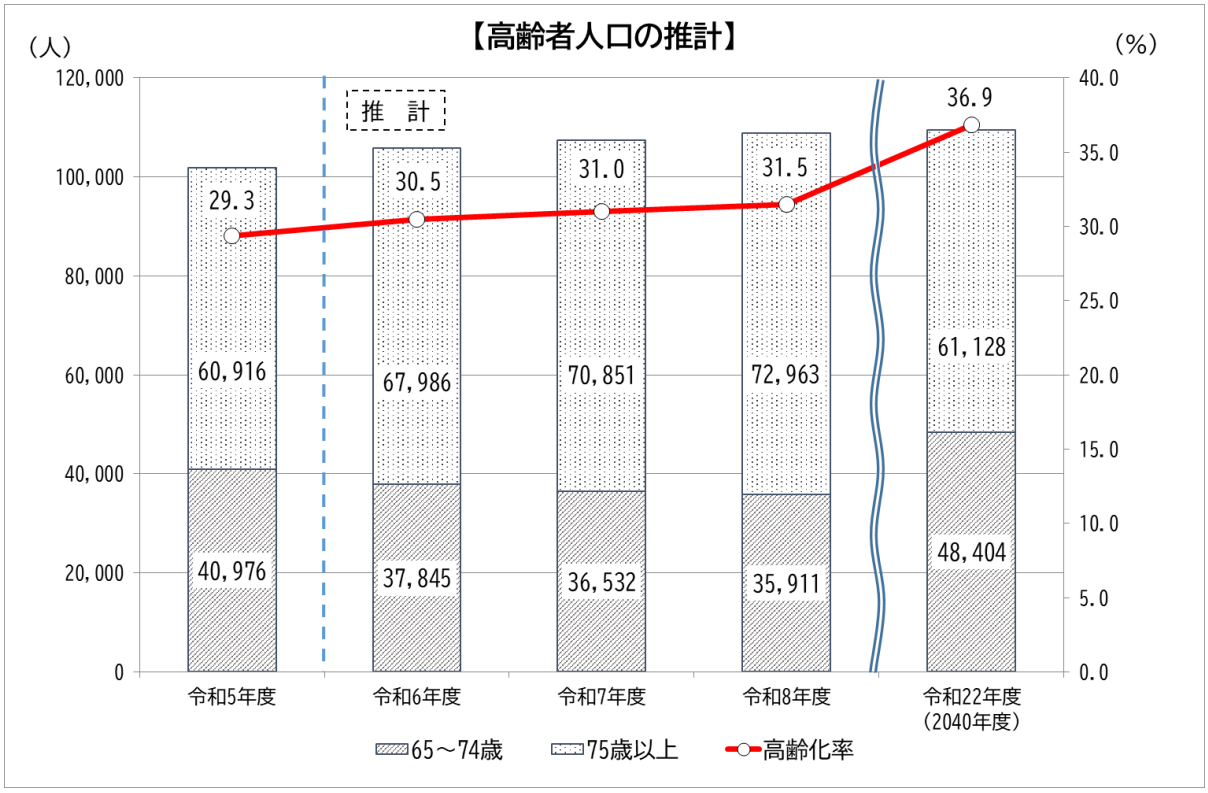


・令和 5(2023)年度は住民基本台帳（9 月末現在）
・令和 6(2024) 年度から令和 8（2026）年度「高槻市の将来人口」
・令和 22(2040)年度は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成 30(2018)年推計)」

（２）高齢者人口の推計

高齢者人口の推計では、令和 6(2024)年度から令和 8(2026)年度まで高齢化率は上昇し、65 歳～74 歳までの前期高齢者数が減少し、75 歳以上の後期高齢者数が増加することが予測されます。

また、いわゆる団塊ジュニア世代がすべて 65 歳以上となる令和 22(2040)年度には、前期高齢者数が増加し、高齢化率は 36.9%まで大幅に上昇する見込みです。



・令和 5（2023）年度は住民基本台帳（9 月末現在）
・令和 6（2024）年度から令和 8(2026)年度は「高槻市の将来人口」
・令和 22(2040)年度は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成 30(2018)年推計)」

５　アンケート調査からみた現状

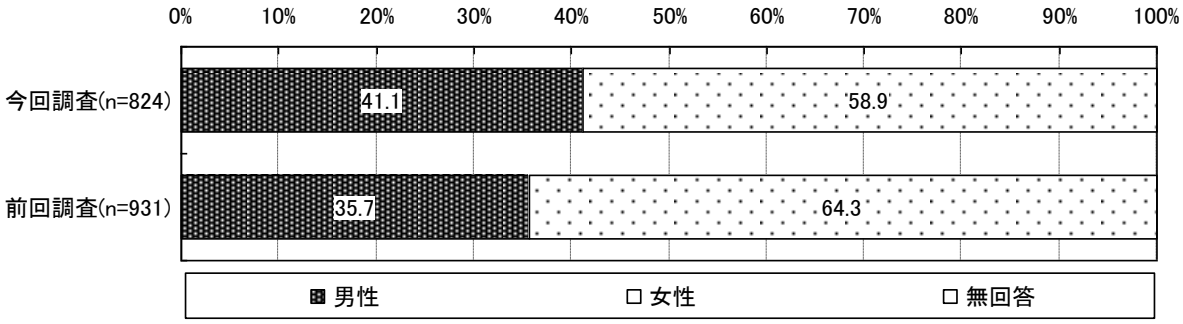
（１）在宅介護実態調査（資料：「在宅介護実態調査」，令和５（2023）年２月より抜粋）

①本人の状況

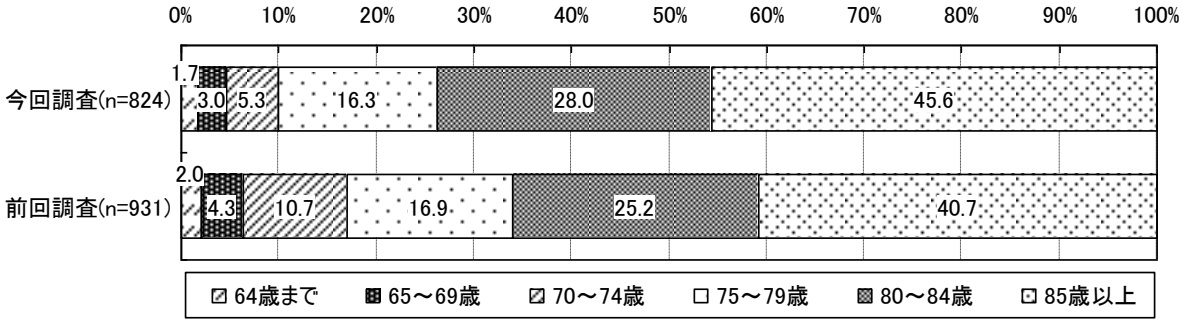
（ア）本人の状況

824 人の回答者のうち前回調査と同様に女性の方が多く、年齢別にみると 75 歳以上の方が 9 割となっています。現在抱えている傷病は筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）が最も多く、続いて心疾患や眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障がいを伴うもの）、認知症が多い結果となりました。

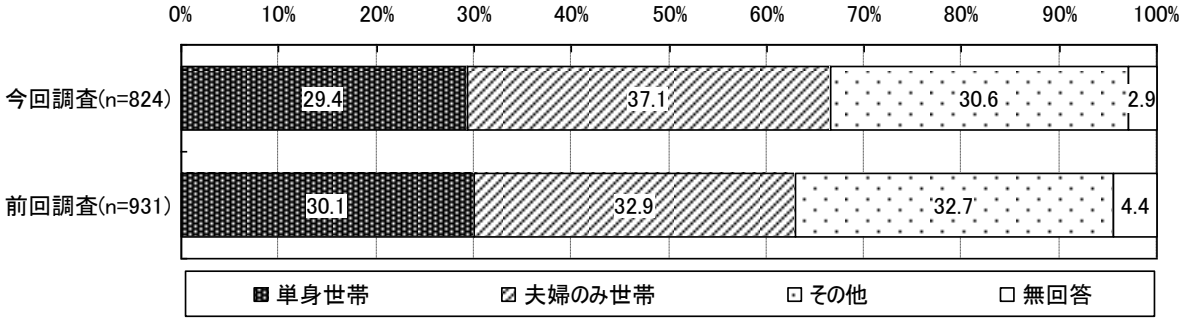
【性別】



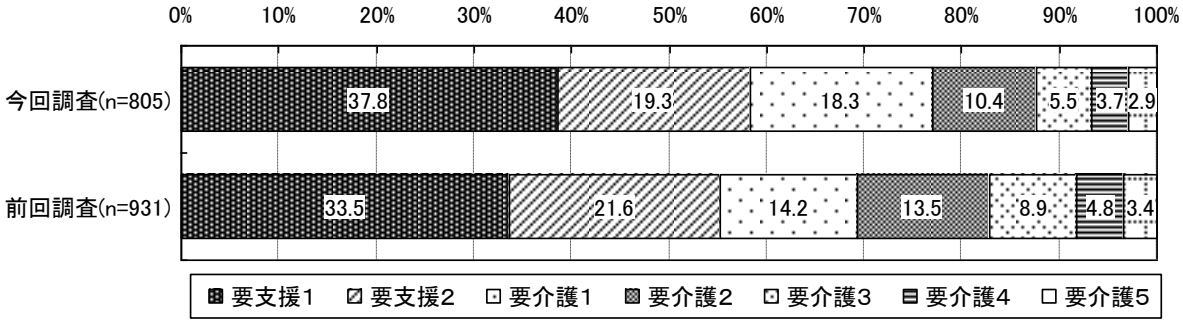
【年齢】



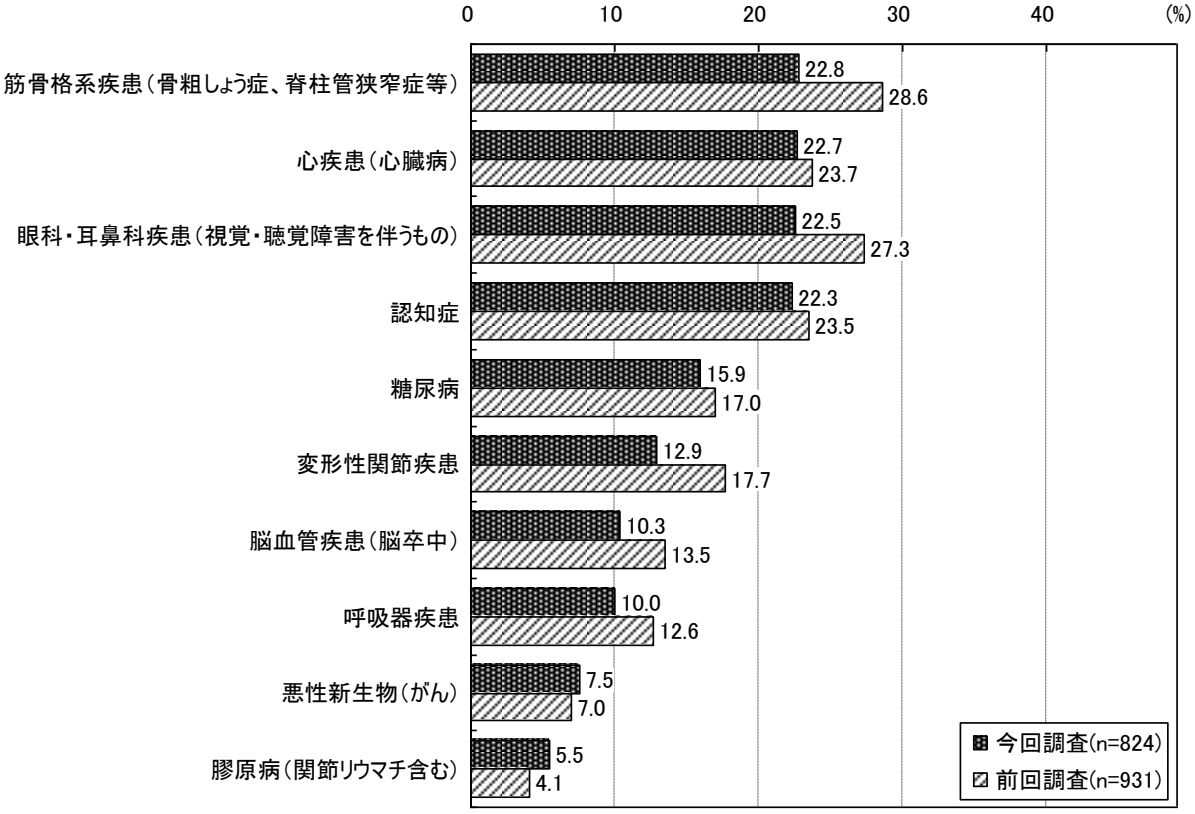
【世帯】



【要介護度】



（イ）現在抱えている傷病[上位 10 項目]

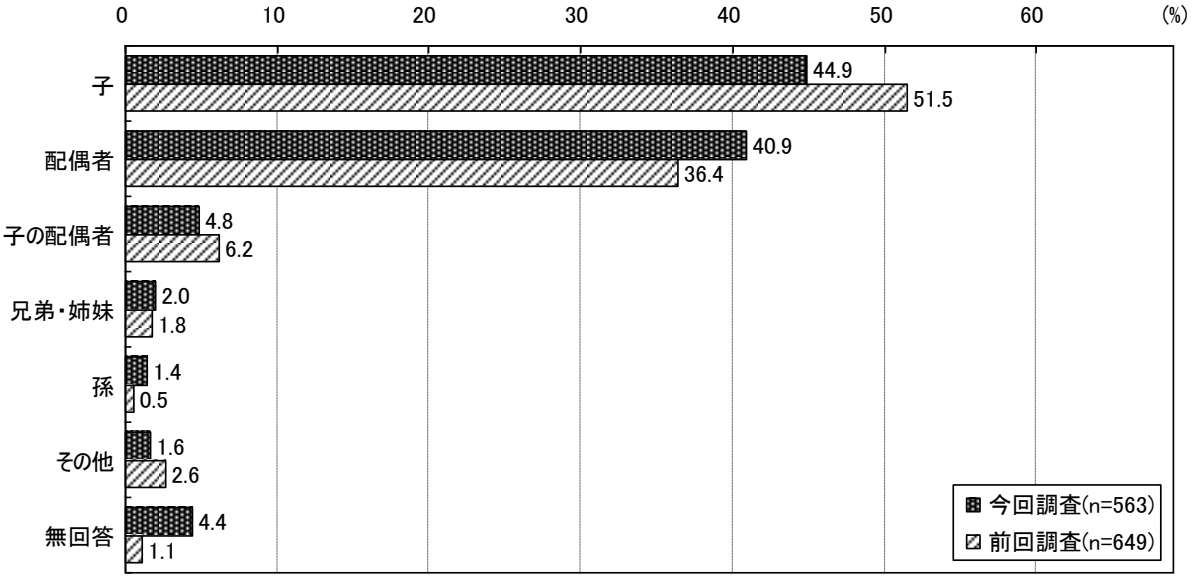


②介護をしている家族や親族の状況

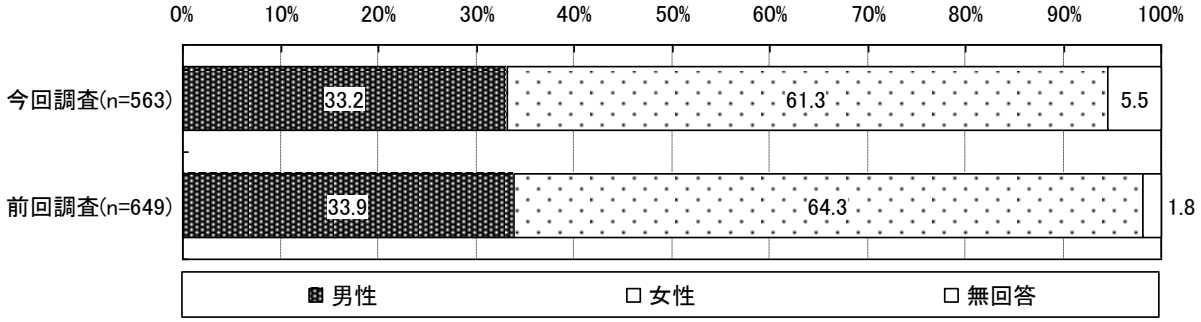
（ア）主な介護者の状況

主な介護者の年齢割合は 70 歳以上が 42%と前回調査よりもやや増加しました。主な介護者の勤務形態は働いていない割合が最も多く 49.4%ですが、前回調査よりフルタイムで働いている人がやや増加しました。また、家族や親族による介護の状況もほぼ毎日が前回調査よりも減少しています。主な介護の内容は、家事(掃除、洗濯、買い物等)や外出の付き添い、送迎等・食事の準備(調理等)・金銭管理や生活面に必要な諸手続きでした。

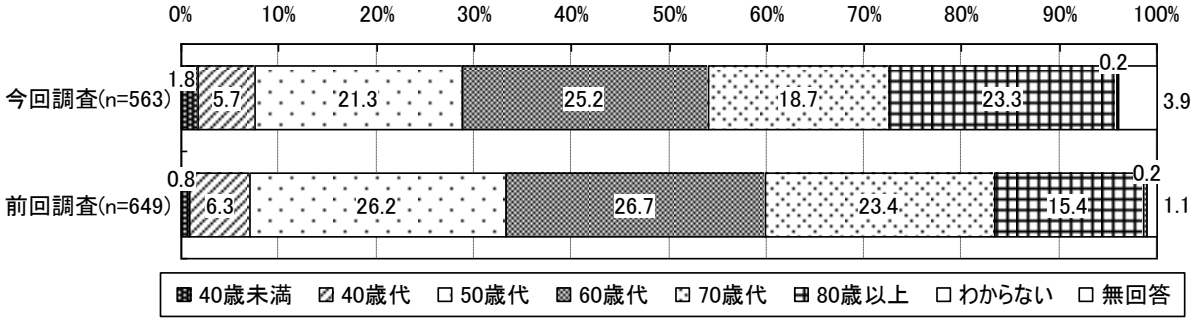
【続柄】



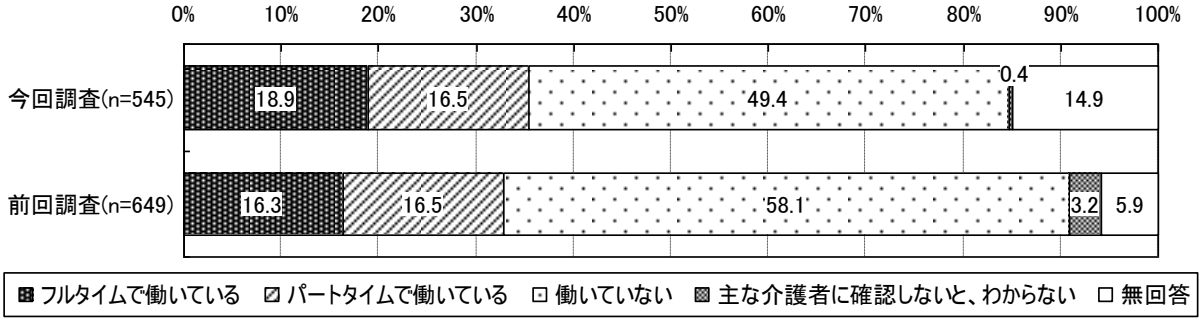
【性別】



【年齢】

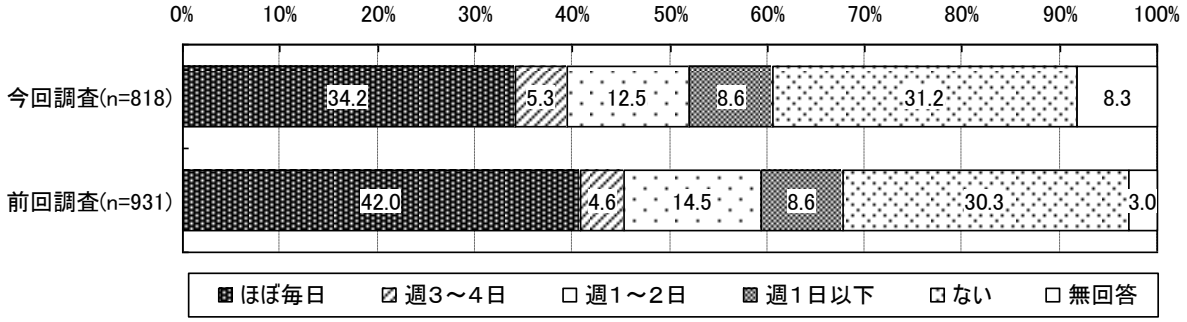


（イ）主な介護者の勤務形態

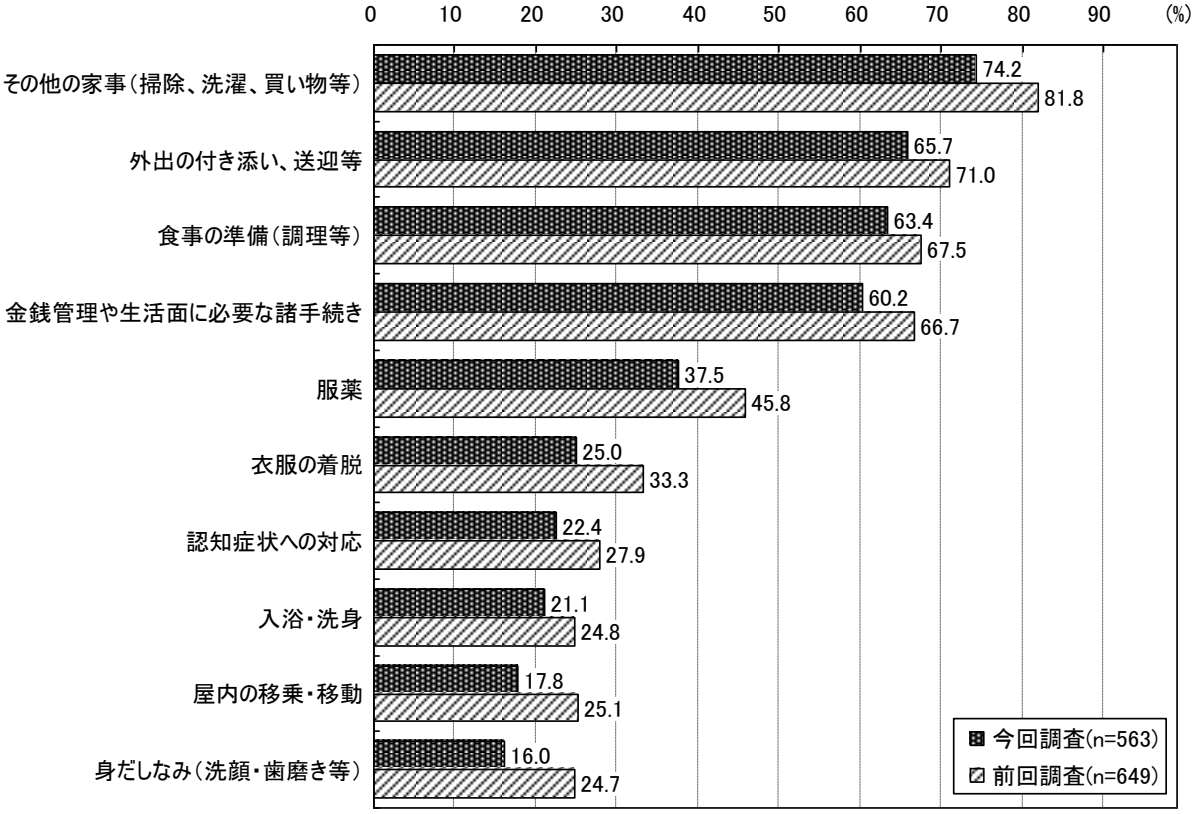


（ウ）家族や親族による介護の状況

【頻度】

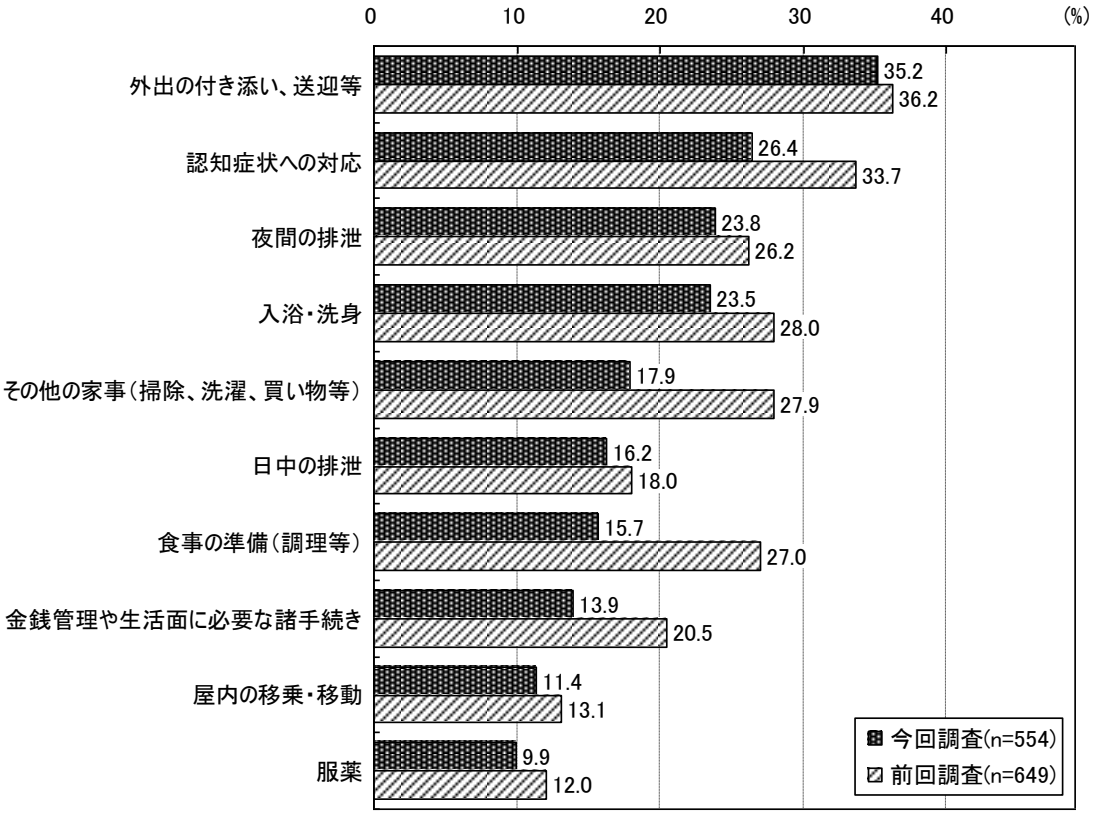


【内容】［上位10項目］



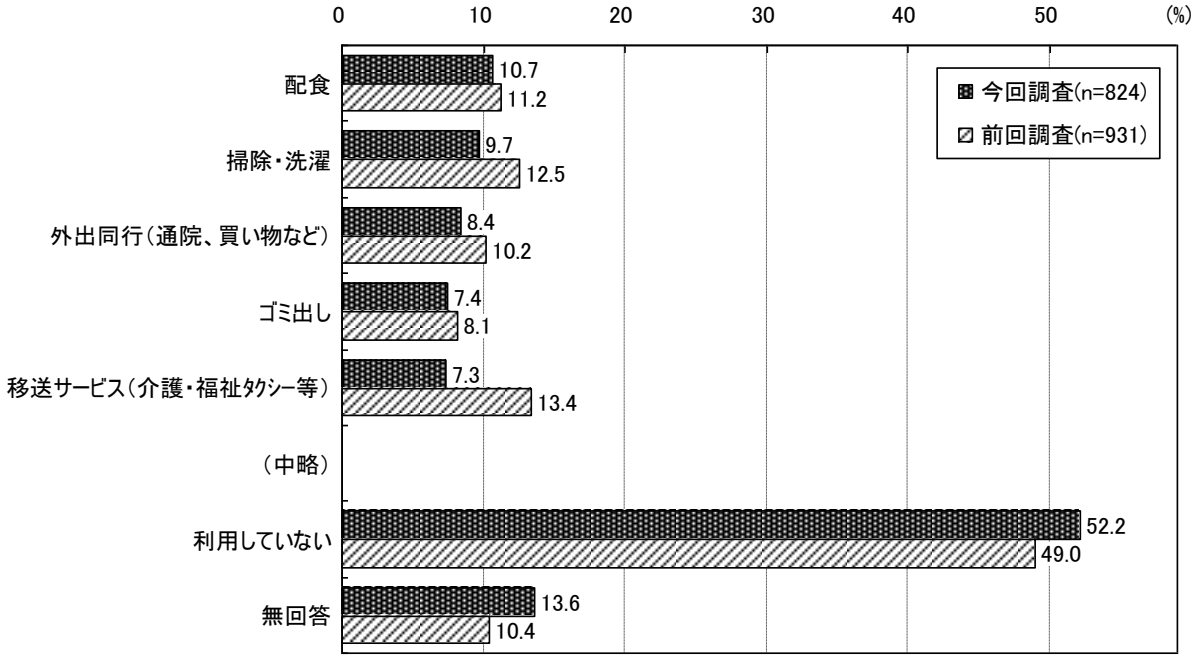
（エ）主な介護者が不安に感じること（複数回答・３つまで）

「外出の付き添い、送迎等」が最も多く、次いで「認知症状への対応」となっています。



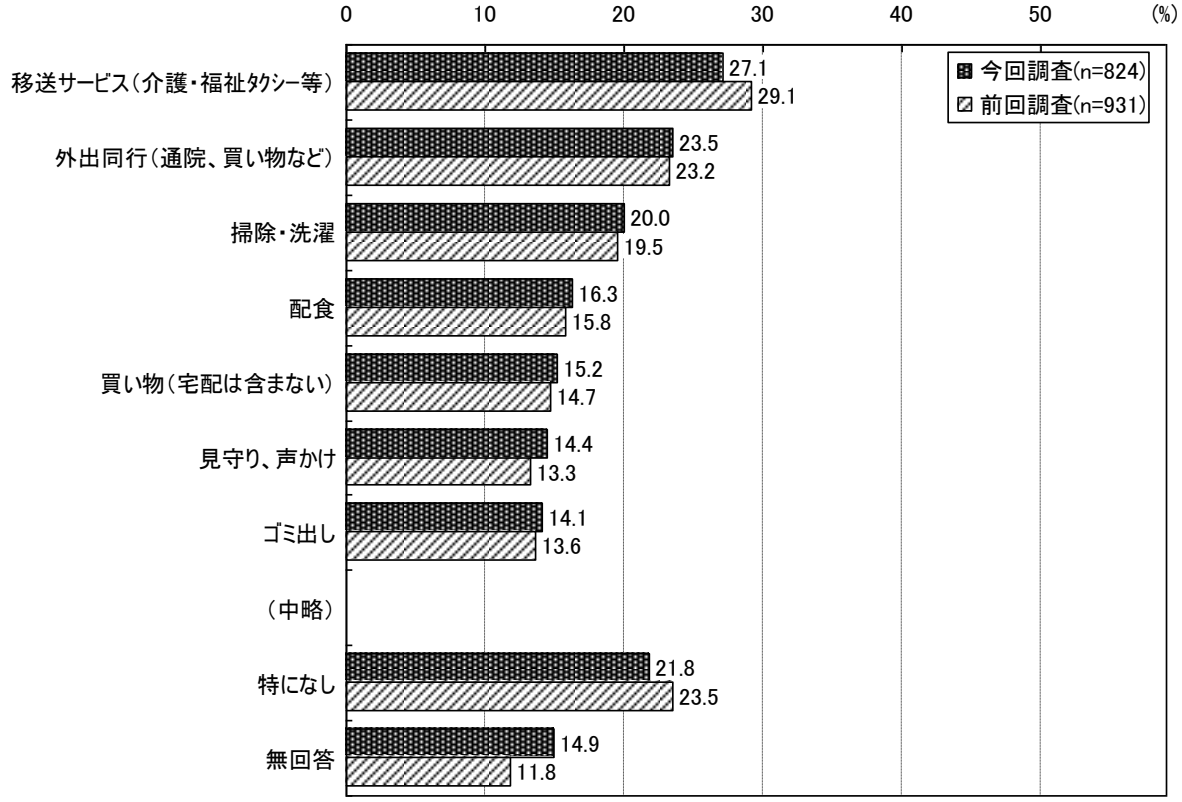
③利用している介護保険サービス以外の支援・サービス（複数回答）

利用している介護保険サービス以外の支援・サービスについて、配食を利用している方が最も多く、次いで掃除・洗濯となっています。



④今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、更なる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」となっています。



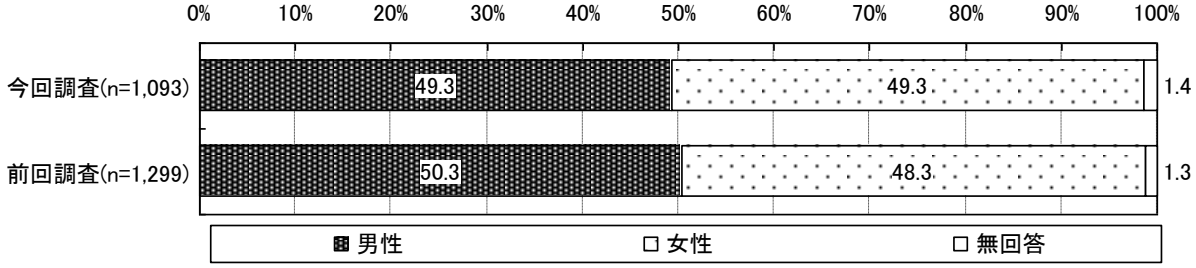
（２）介護保険・高齢者福祉に関するアンケート調査

（資料：「介護保険・高齢者福祉に関するアンケート調査」，令和５（2023）年５月より抜粋）

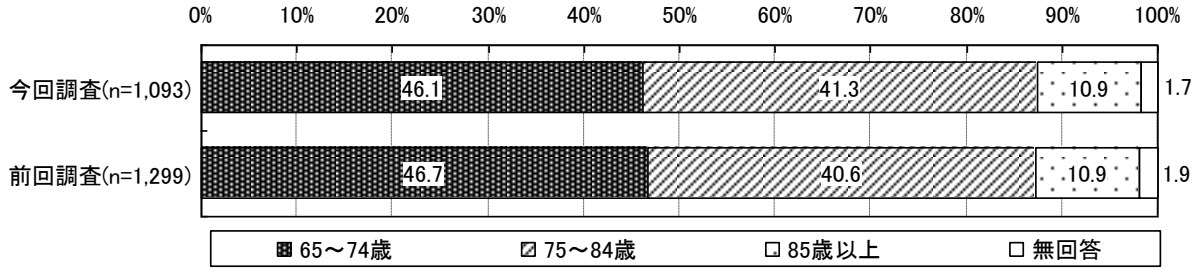
①生活の状況

1,093 人の回答者のうち性別での差はなく、年齢別にみると 75 歳以上の方が半数を超えています。また、夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）の割合が最も高くなっています。

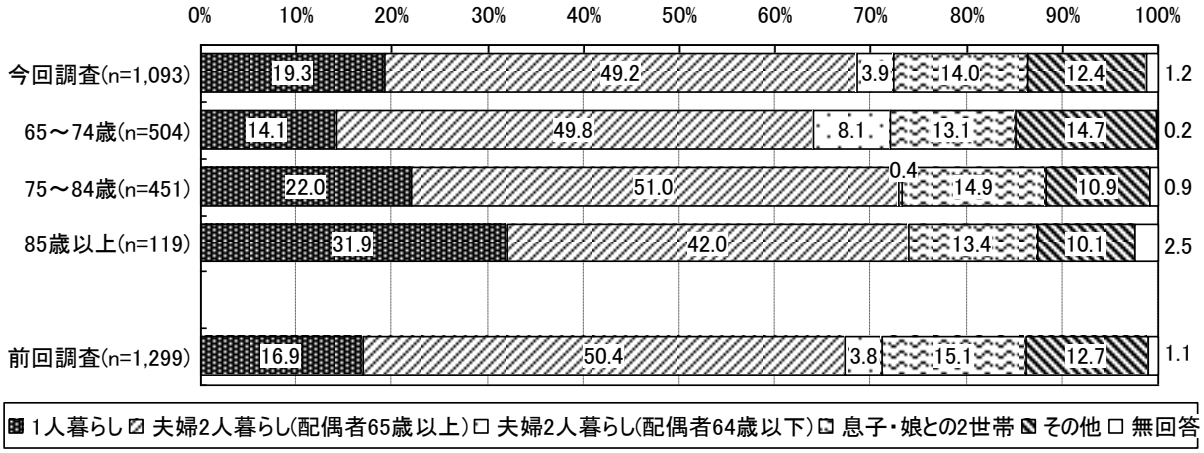
【性別】



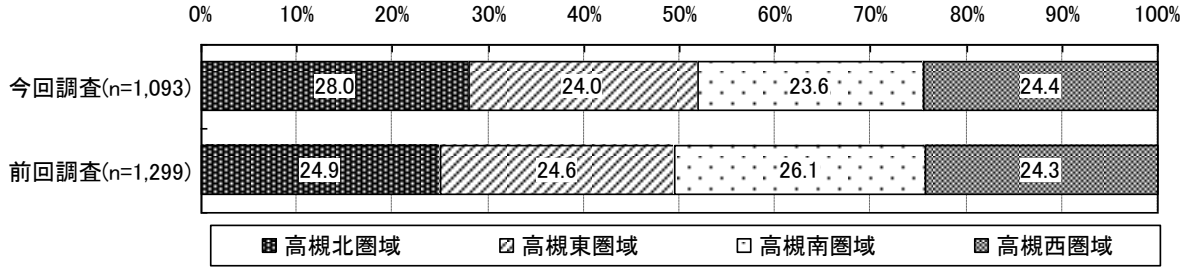
【年齢】



【世帯】



【日常生活圏域】

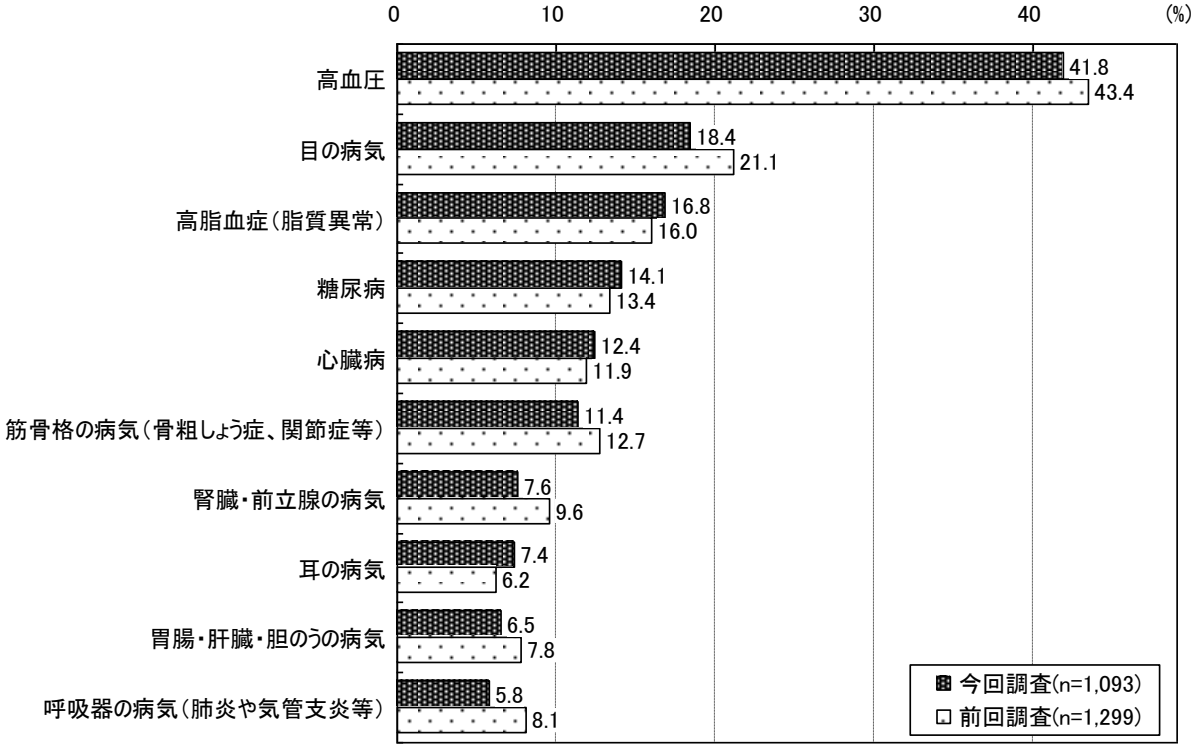


②疾病や健康状態

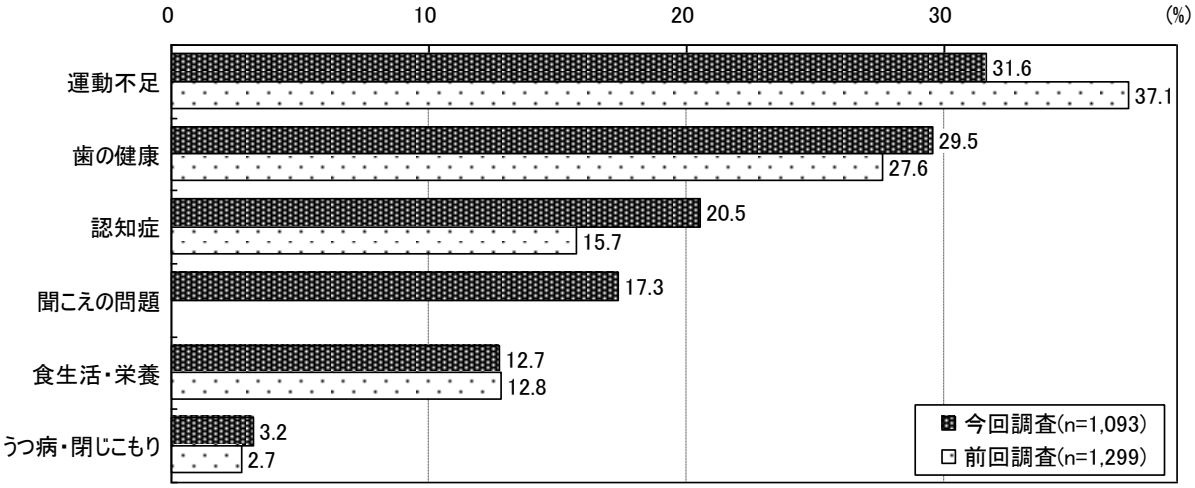
現在治療中の病気は、前回調査と同様に高血圧が最も多いです。

また、健康について不安に感じていることは、主に運動不足と歯の健康で、どちらも前回調査と同じ項目になっています。

（ア）現在治療中、又は後遺症のある病気（複数回答）※上位 10 項目



（イ）健康について、不安に感じていること（複数回答）

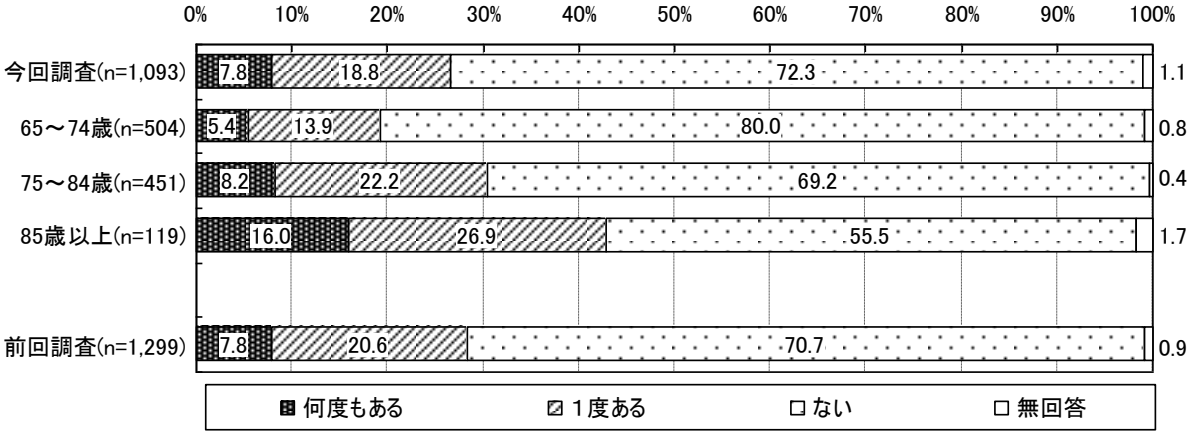


③転倒と外出

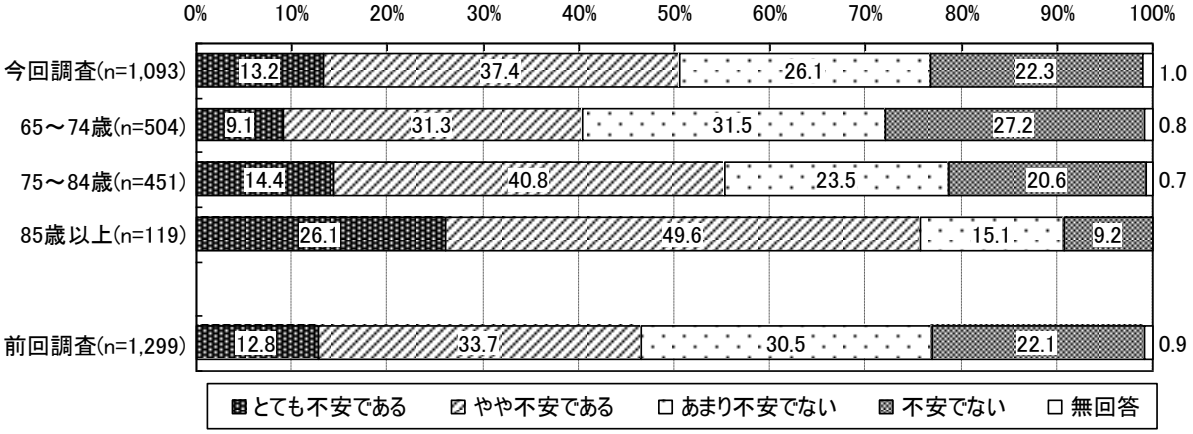
過去１年間に転倒経験が１度以上ある方は約 27%でした。また、転倒に対する不安が大きいかどうかについては、「とても不安である」が 13.2%、「やや不安である」が 37.4%と前回調査よりやや高くなっています。

外出の頻度は、年齢が高齢になるほどほとんど外出しない方の割合が多い状況でした。外出の目的は、買い物が最も多い状況でした。

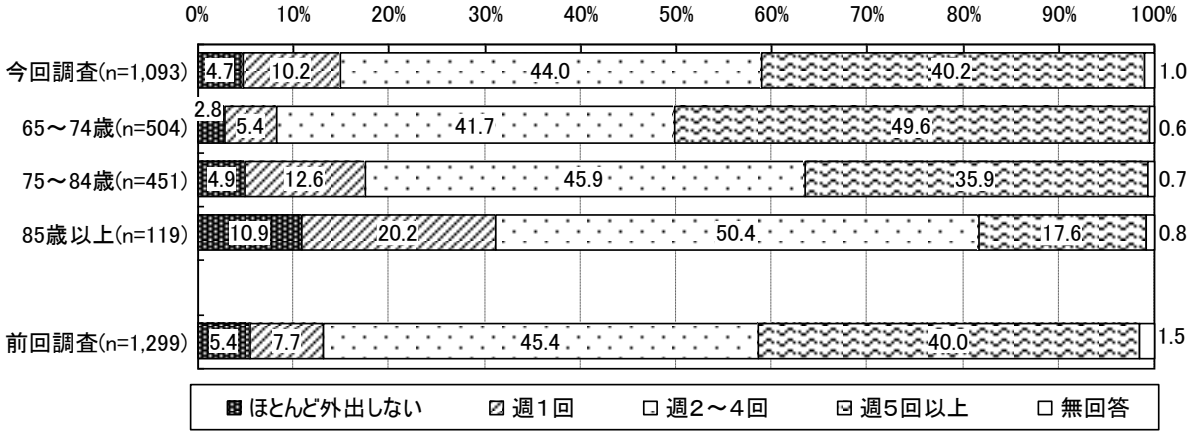
（ア）過去１年間の転倒経験



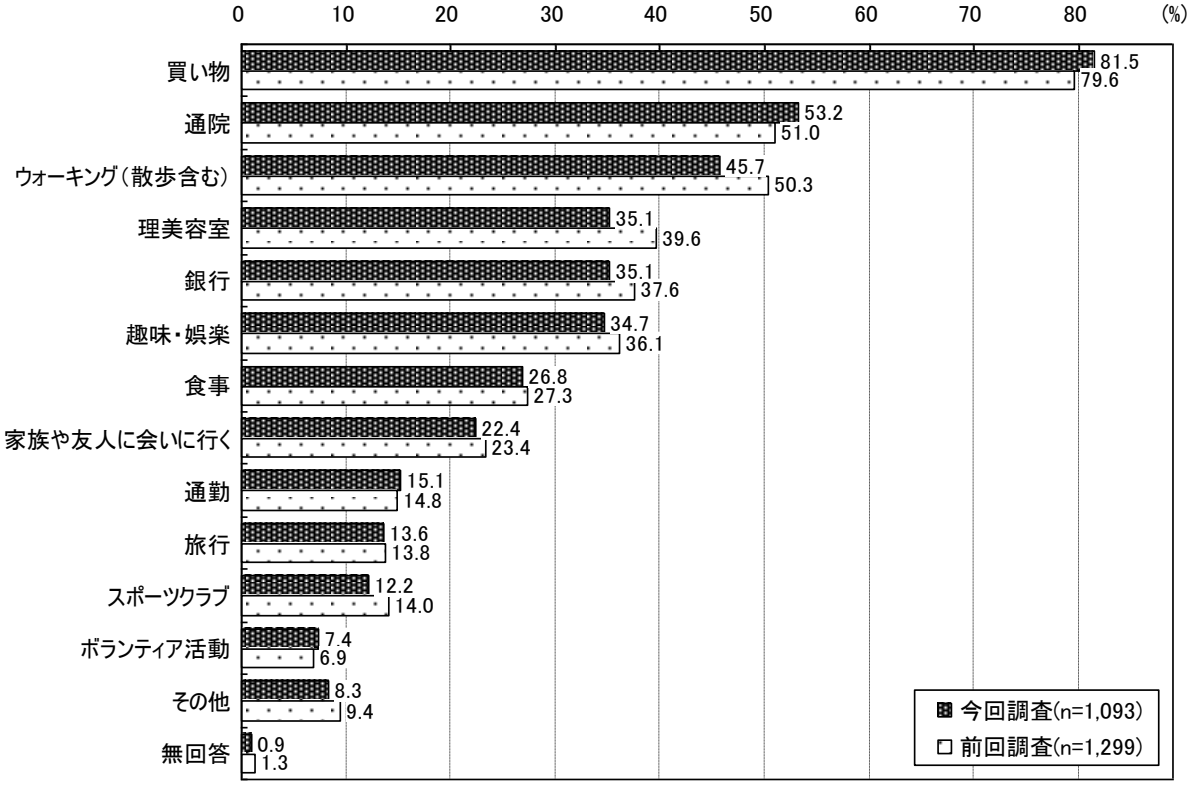
（イ）転倒に対する不安



（ウ）外出の頻度



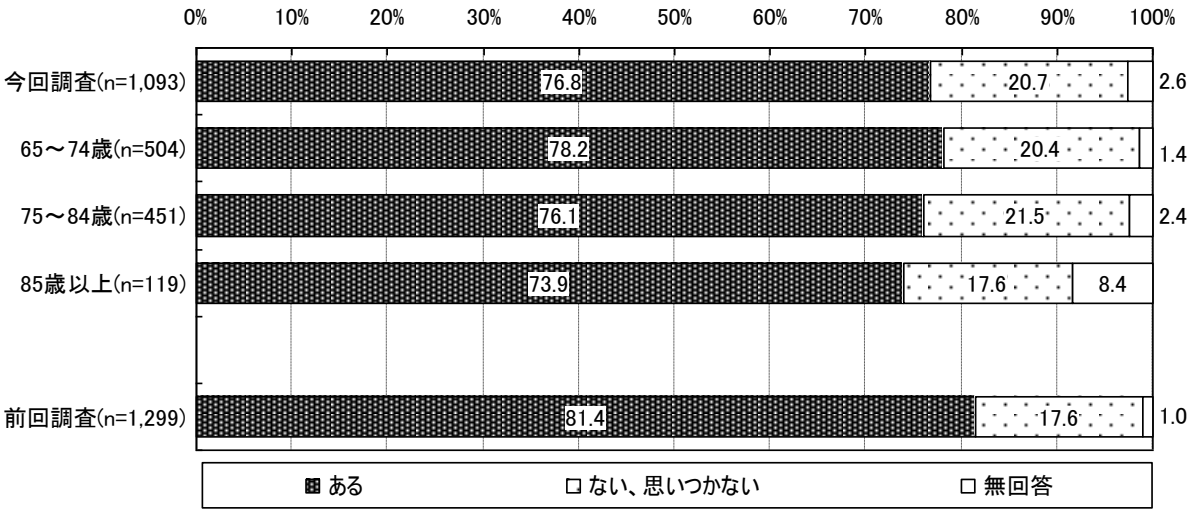
（オ）外出の目的（複数回答）



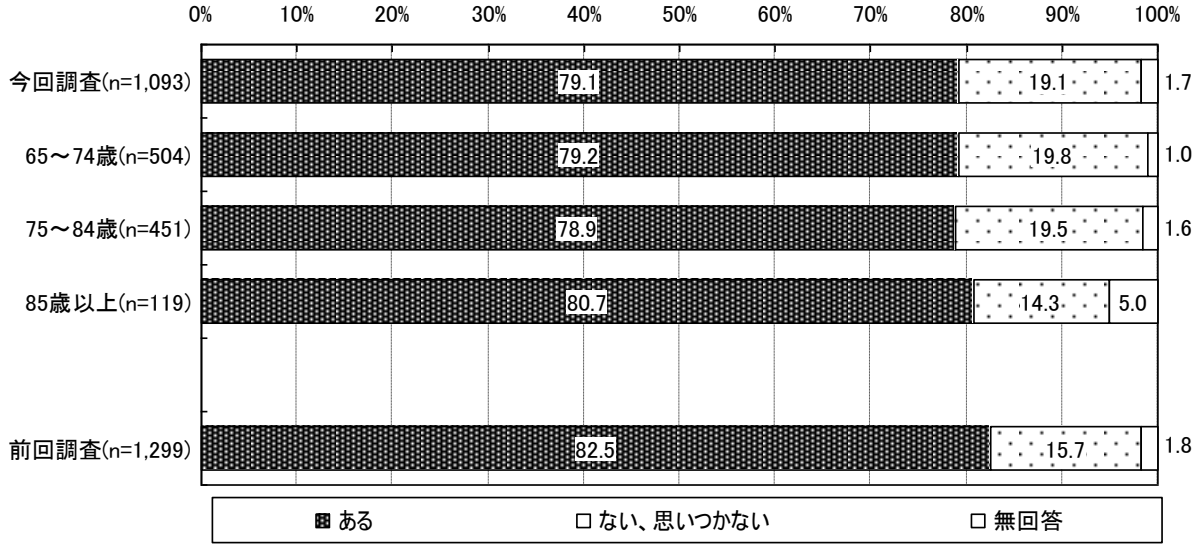
④社会参加と生きがい活動

約 80%の方が趣味や生きがいがある状況でした。グループ活動の参加で最も多いのは趣味関係のグループでした。地域住民の有志による地域づくりへの参加意向は前回調査よりやや高くなっています。

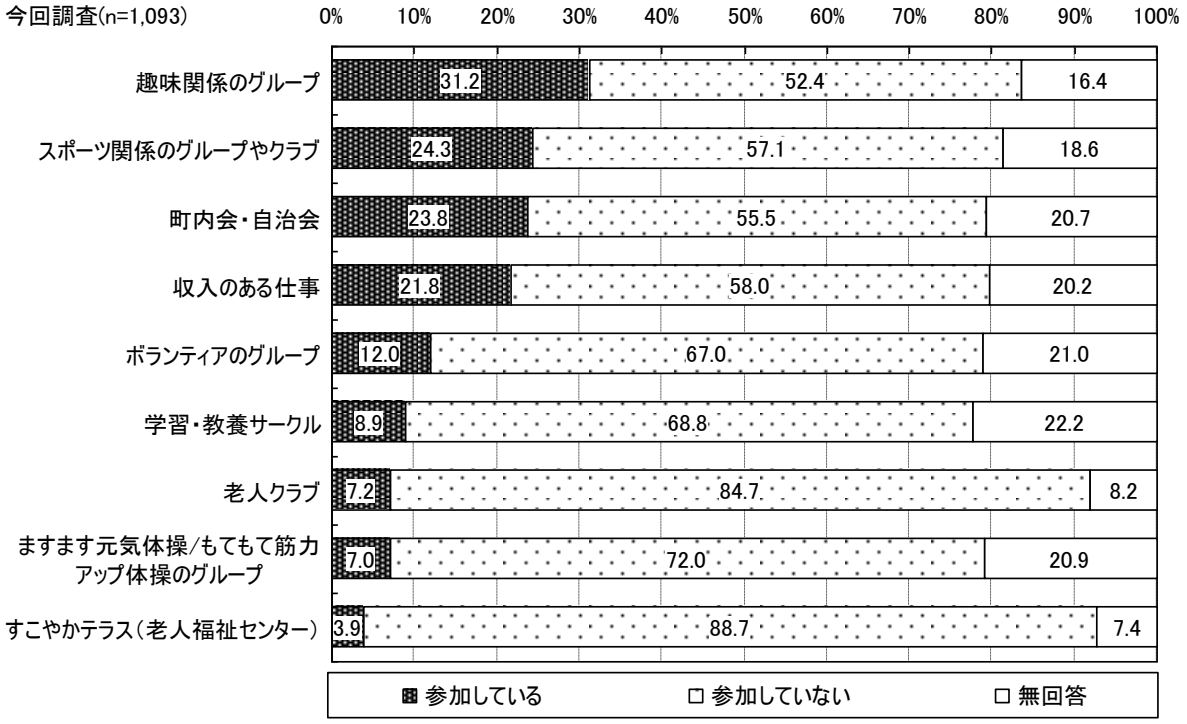
（ア）趣味について



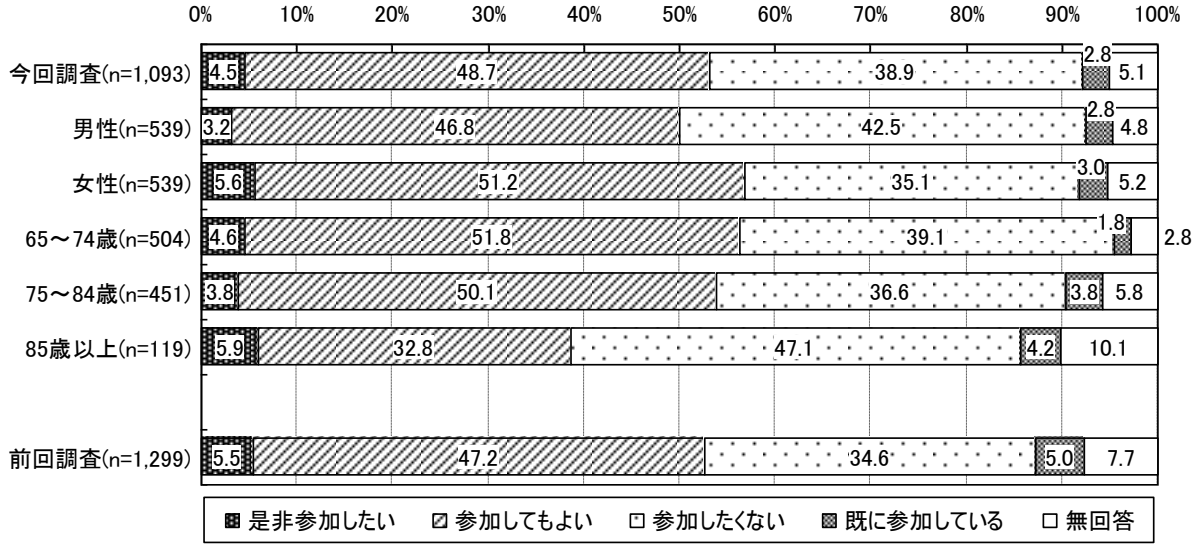
（イ）生きがいについて



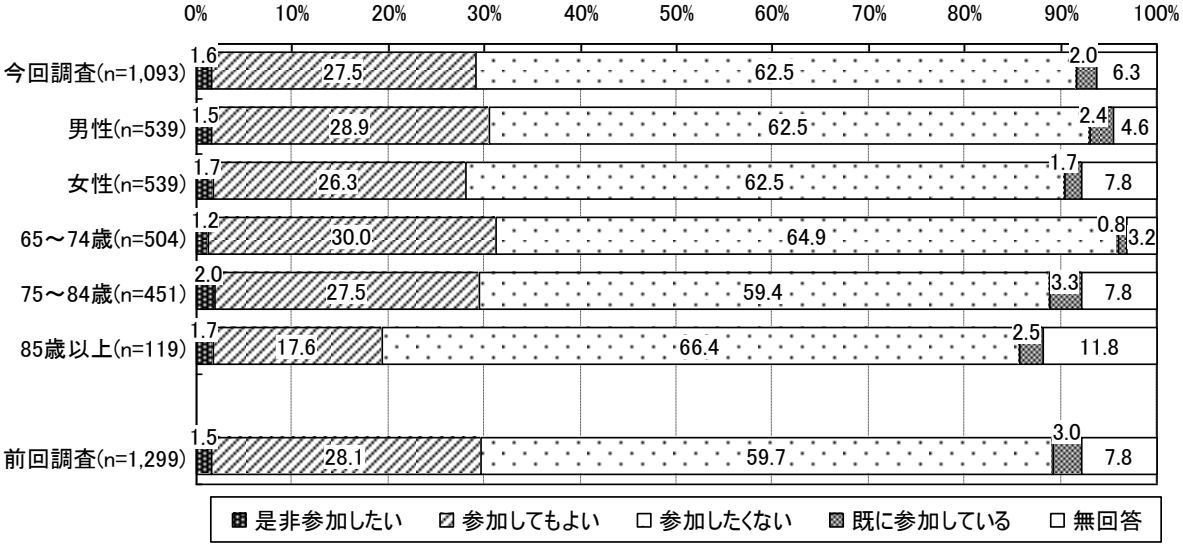
（ウ）グループ等の活動への参加頻度



（エ）地域住民の有志による地域づくりへの参加意向



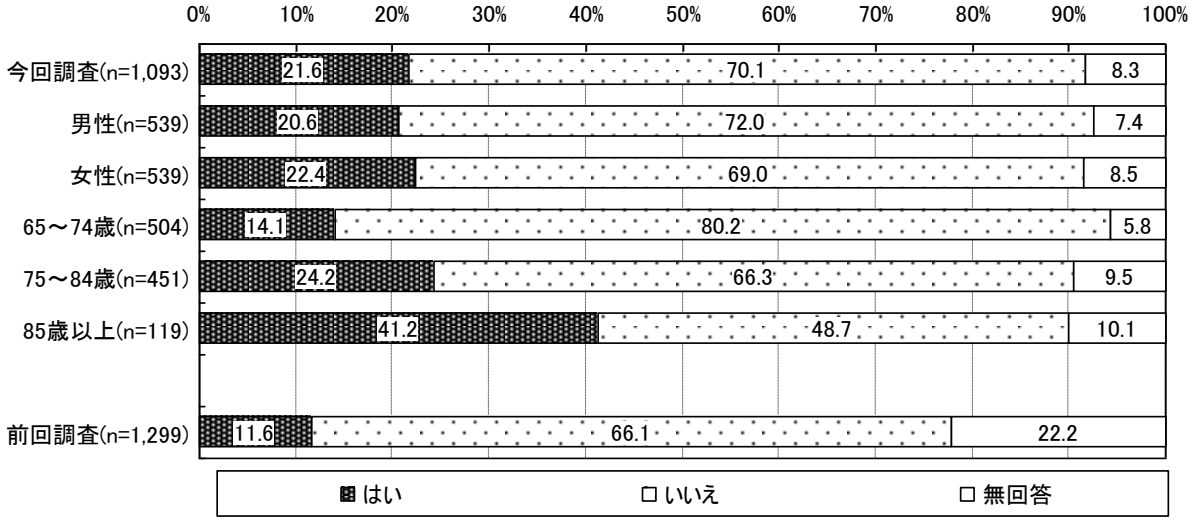
（オ）地域住民の有志による地域づくり運営への参加意向

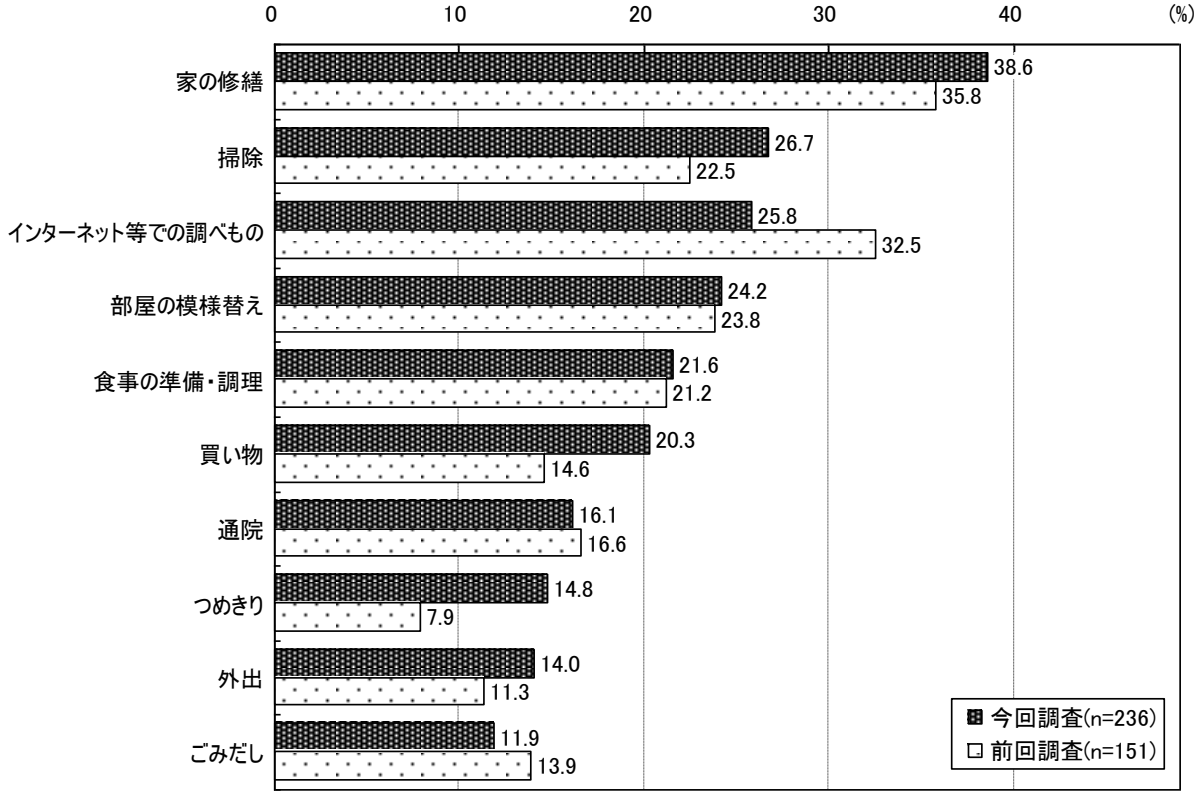


⑤地域での支え合い

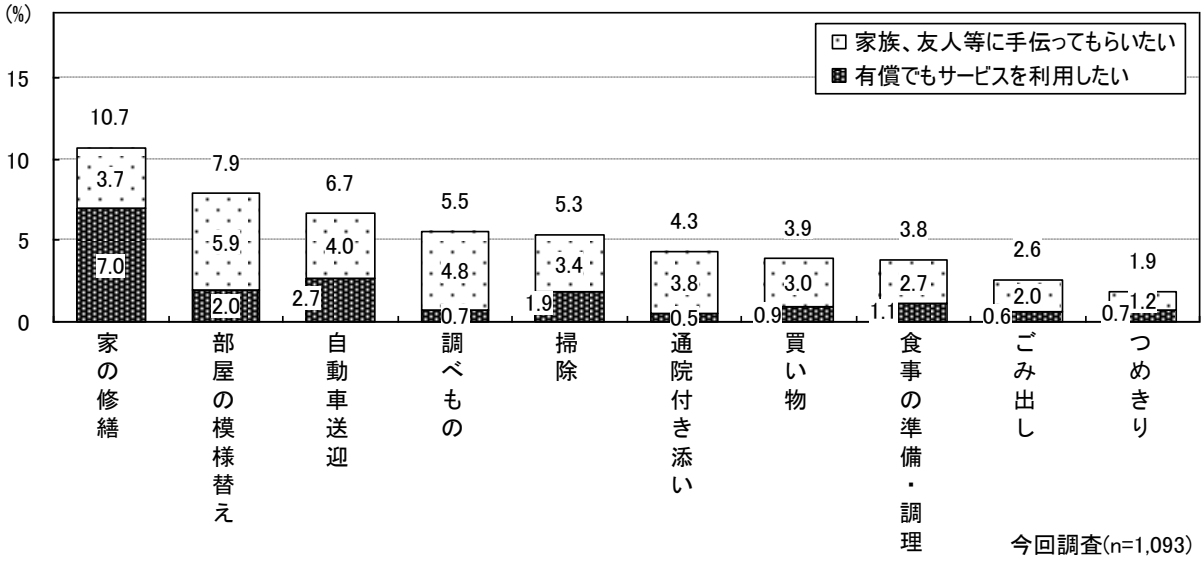
日常生活で困っていることとして家の修繕が 38.6%と最も多く、続いて掃除、インターネット等での調べものでした。インターネット等での調べものについては前回調査から大きく減少しています。また、隣・近所などまわりの人に対してのお手伝いは現在している方が一定数おられ、機会があればやってもよいとする方と合わせると「声かけ・見守り」は半数を越えていました。

（ア）日常生活で困っていること※内容については上位 10 項目（複数回答）

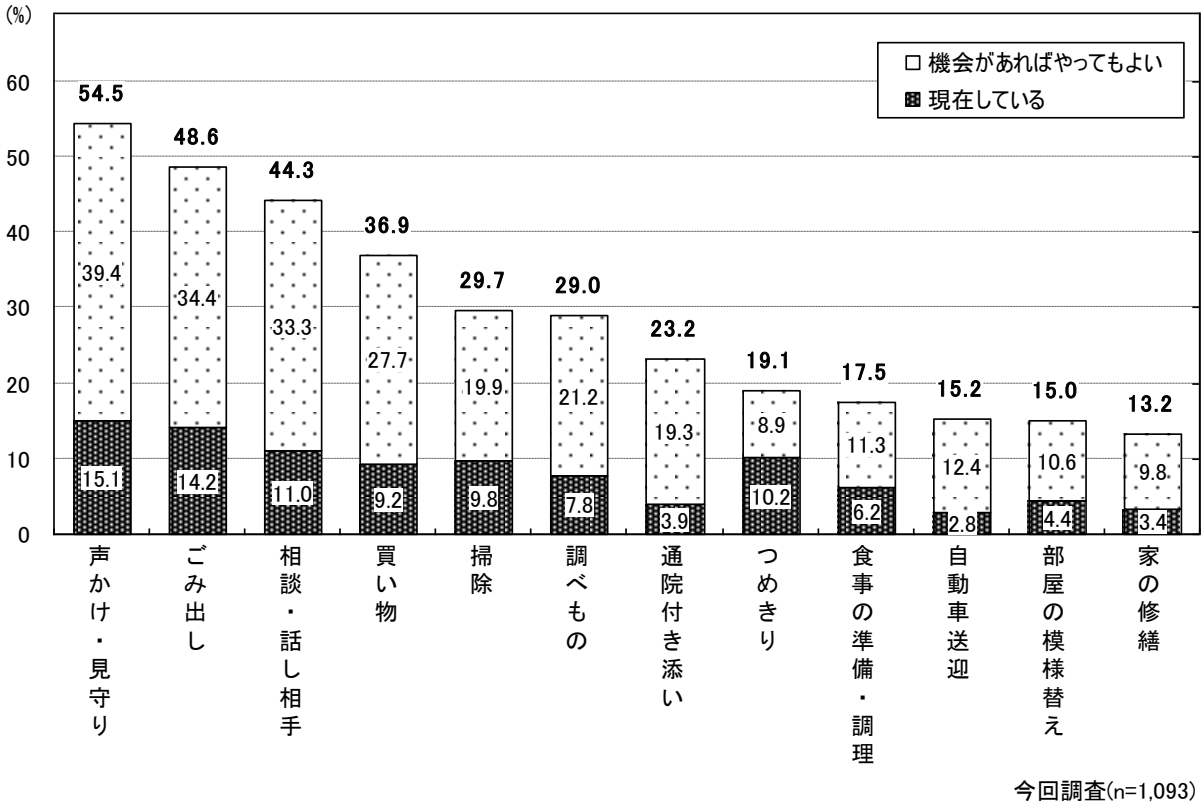




（イ）お手伝いの必要性



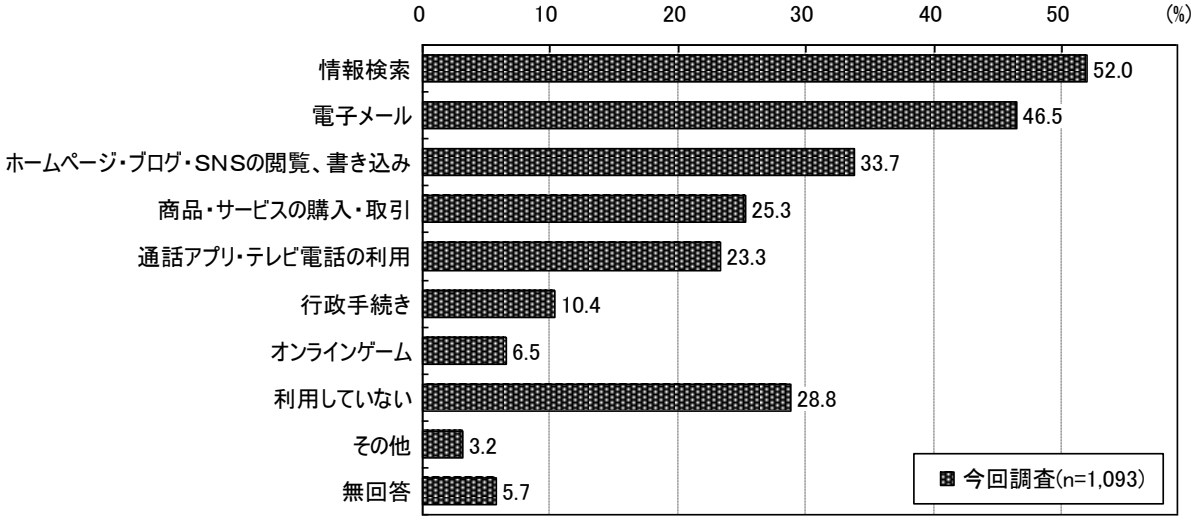
（ウ）隣・近所などまわりの人に対してのお手伝いについて



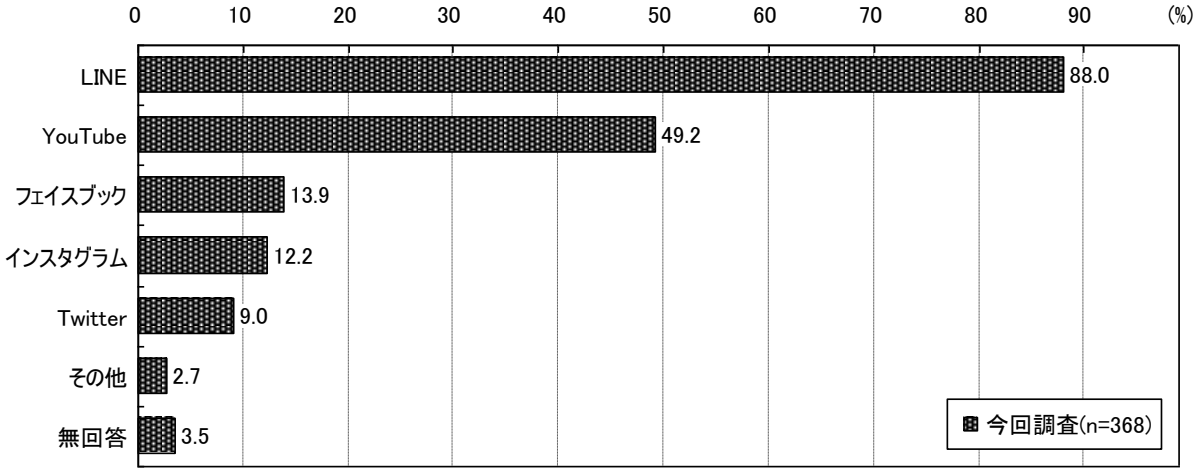
⑥インターネット等の利用状況について

インターネットの利用目的では、情報検索が 52%、電子メールが 46.5%、ホームページ・ブログ・SNSの閲覧・書き込みが 33.7%となりました。また、利用しているSNSについては、LINEが 88%、YouTubeが 49.2%となっています。

（ア）インターネットの利用目的（複数回答）



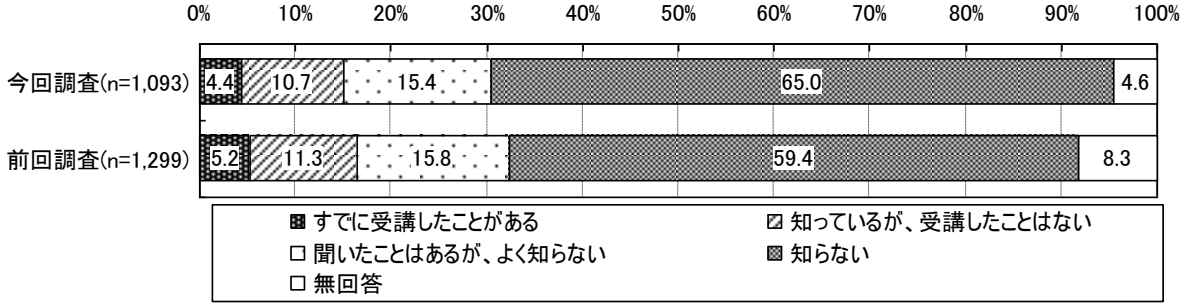
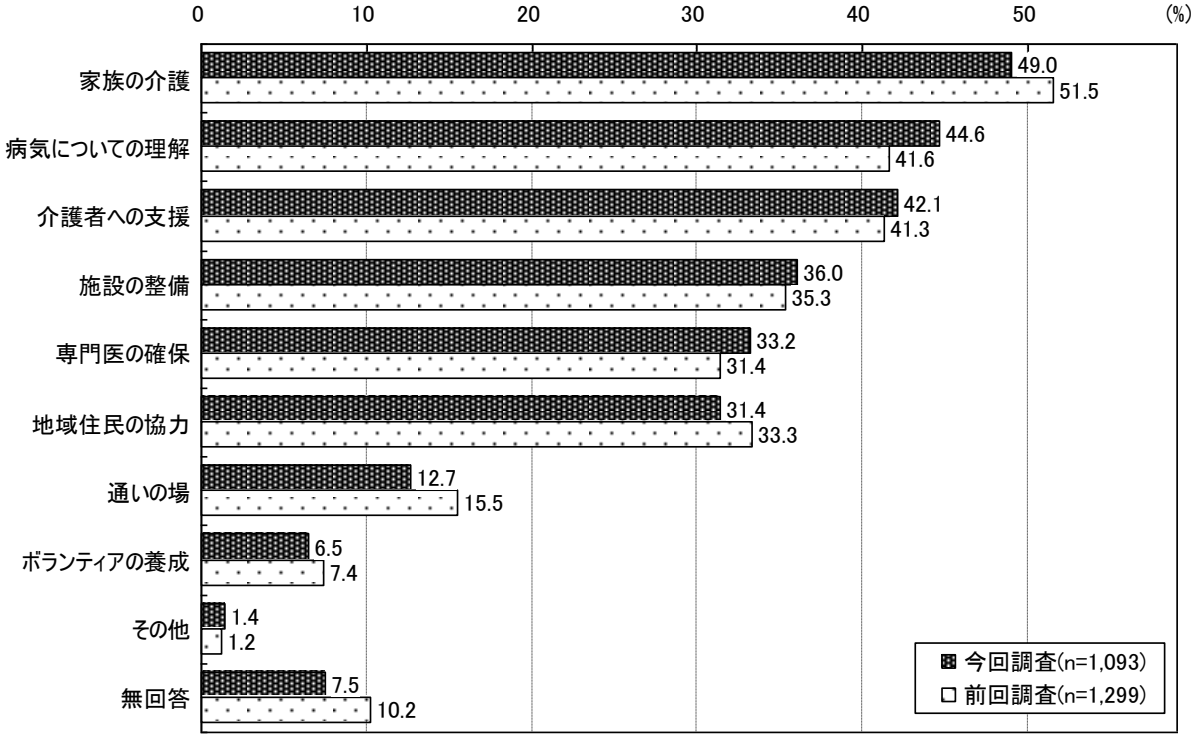
（イ）利用している SNS（複数回答）



⑦認知症について

認知症サポーターを既に受講したことがあるとする方は前回調査よりも減少していました。認知症の人が地域で生活するために必要なものとして家族の介護が最も多く、次に病気についての理解となっています。

（ア）認知症サポーターの認知度



（イ）認知症の人が地域で生活するために必要なもの※上位 8 項目（複数回答、3 つまで）